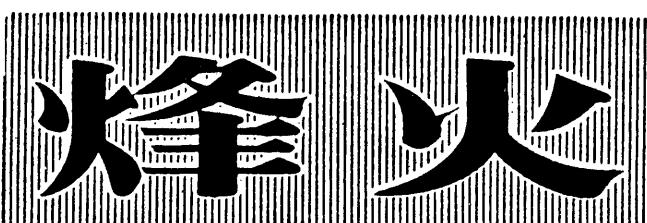


☆帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命を粉碎し、世界革命戦争一世界プロ独を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に組織せよ！

1983年
3月1日
第348号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

- 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄東2丁目2の31
とみやビル15号 Tel(06)371-3706
- 郵便振替 大阪3-63333 高木一夫
- 銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫
- 東京戦旗社 東京中央郵便局 私書箱1114号

迫りくる戦争の危機に 社会主义革命の準備戦で応えよ

日帝・中曾根政権の軍拡・
改憲・行革攻撃粉碎せよ！

全国のたたかう労働者人民諸君！

全世界はいま未曾有の一一大不況と戦争の危機につつまれている。失業・生活不安の増大、米ソ核軍拡競争の激化を背景にして、西欧諸国では政権交代があいつぎ、反核運動がますます政治的性質をおびるとともに、巨大な政治流動が開始されようとしている。わが国でも中曾根政権の登場と一連の訪韓・訪米の軍事外交によって戦争への動きがいっきょに加速されている。まさに「不沈空母」＝日本帝国主義は、朝鮮・アジアへの侵略反革命戦争へとカジを切ろうとしているのだ。国内では改憲を軸としたファシズム社会運動が台頭し、これと軌を一にして労働運動の産業報国会化攻撃が一段と強められている。

迫りくる帝国主義戦争とファシズムにたいし、革命党を強化し、階級陣型をうち固め、プロレタリア社会主義革命の準備を急がねばならない。三一四月、八三春闘をたたかいぬき、三・二一佐世保、三・二七三里塚闘争に決起し、八年春闘の大前進をかちとろう！

日米韓反革命体制の強化策す中曾根・レーガン



中曾根訪韓阻止羽田現地闘争に決起した赤ヘル部隊 (1・11)

3・21

3・27

佐世保寄港阻止闘争

三里塚二期決戦勝利！

全国総決起闘争

原子力空母＝エンター・プライズ

三・二七現地闘争の転換期を領導し

全国のたかう労働者人民のみなさん！

三里塚反対同盟は、きたる三月二七日、二期工区決戦の勝利にむけて三里塚現地に総結するよう全国に檄を発した。わが共産同（全国委）はこの檄にこたえ、ただちに三・二七闘争の組織化に着手するようよびかける。

八二年は三里塚闘争と反対同盟にとって、まさに試練の一年であった。だが反対同盟は敵の条件派育成攻撃をうち破り、二期決戦にむかう隊伍をさらにうち固めた。きたる三・二七闘争はこの苦闘の一いつ切を勝利にむけた怒とうのような進撃へ転化するたたかいである。日帝II中曾根政権の侵略反革命戦争とファシズム準備にたいする総反撃を組織せよ！三里塚闘争の転換期を領導し、プロレタリア社会主義革命にむけた労農同盟を建設せよ！このたたかいの成否は、階級的労働運動を創りださんとするプロレタリアートの双肩にかかる。

全力で三・二七現地闘争に決起せよ！

日帝II中曾根政権下で

激化する二期着工攻撃

日帝II中曾根政権の登場によって、三里塚闘争はいよいよ重大な局面を迎えていた。中曾根は七八年の開港阻止決戦当時「成田は役人まかせではだめだ。極左暴力集団は断固絶滅すべきである。政治はきっちりとけりをつけよう」（自民党役員会）と発言し、三里塚闘争への激しい階級的憎悪をむきだしにした人物である。いま政権につき、戦争とファシズム準備を急ぐ中曾根が、二期着工II軍事空港完成化、三里塚闘争破壊につき進むことは必至である。この日帝II中曾根の意をうけ、

昨十二月一日、長谷川運輸相は「成田空港はパイプラインも完成したし、今度は第二期工事に進む姿勢である」と表明した。まさに八年は決戦の年となろうとしている。

このもとで日帝II公團の二期着工攻撃が急ピッチで進んでいる。公團は本年六月～八月には二期完成化に備えて、パイプラインによる本格的燃料送油を開始すると宣言した。また昨年十一月十九日、運輸省と建設省は、千葉県が騒音対策特別措置法にもとづいて策定した「騒音対策基本方針案」に同意した。それは騒音対策の名のもとに空港周辺農民・住民のたたきだしをねらうものである。そして三里塚空港建設に関する事業認定取り消し訴訟の八三年早期結審・棄却にむけて、東京地裁は証人棄却・最終準備書面提出命令を発す

るという暴挙をおこなった。

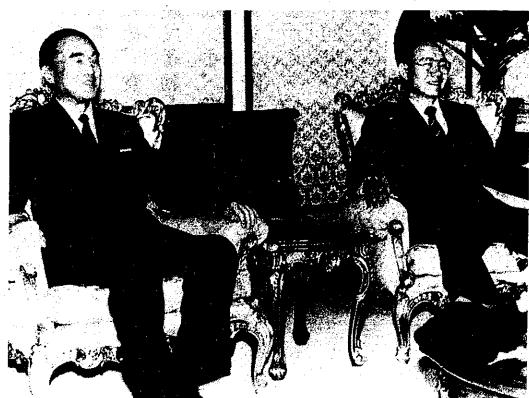
この二期着工攻撃の要は、反対同盟そのものを破壊し、二期用地の無血開城をはかることにある。用地内を先頭にしたたかう反対同盟が健在であるかぎり、二期着工は七八年の開港阻止決戦をはるかにうわまわる大闘争をひきおこすだろうことを、日帝II公團は骨身にしみて思ひ知らされているからである。それゆえ彼らは七八年以降、用地内農民の買収、用地外農民への成田用水攻撃、そして反対同盟を条件闘争にひきこもうとする「対話」攻撃に全力を傾けてきたのである。八三年に入ても彼らは二月一日より成田市社台フレームに二期代替地を造成し、菱田学区では九割以上の成田用水同意書を得ようとし、今秋、用水着工をねらっている。

深まる帝戦争の時代と 社会主義革命の準備戦

世界資本主義の危機がますます深まるなか

で、八三年は史上三度目の帝国主義世界戦争の前夜ともいいうべき激動をもって幕をあけた。米帝IIレーイガーン政権は八四会計年度予算教書において、国防費総額二三八六億ドル（前年度比一四・二%増）の大軍拡予算を組むと明瞭かにした。それは「限定核戦争戦略」のもと、ソ連社帝との軍事的対抗をさらに強化し、パレスチナ、エルサルバドル、韓国など全世界で高揚する反帝民族解放闘争をたたきつぶさんとする米帝の反革命的決意をしめすものであった。

危機を深める日本帝国主義もまた、自民党内最右翼の位置を占めてきた中曾根をおしたて、朝鮮・アジア侵略反革命戦争とファシズムへの突撃を開始した。元内務省官僚、海軍



「新次元の日韓関係」——新植民地
支配の強化を約した日韓首脳会談

将校である中曾根は、戦後ただちに「青雲塾」なる反共運動を組織し、改憲運動を推進しつづけ、「尊敬する人物はヒットラー」と公言してはばかりない極反動分子である。このよくな中曾根にブルジョアジーが期待するものは「八三年は戦後史の総決算の年」「あらゆる制度・仕組みのタブーを見直す」(施政方針演説)と中曾根が宣言するように、戦争とファシズムへの歴史的転機をきりひらくことにある。中曾根は安保再編、軍備増強、改憲を軸にしてこの道をつき進んできた。

一月にあいついだ中曾根訪韓・訪米、日韓首脳会談は中曾根政権の反革命的性格を鮮明にしめした。

一月一日、中曾根は首相としては戦後はじめて韓国を公式訪問した。日韓首脳会談は韓国のマスコミが一斉に「韓日米三角安保強化に合意」と報導したように、日米韓反革命体制の飛躍的強化をねらうものであった。また光州蜂起の血の弾圧のなかから成立した全斗煥軍事独裁政権にテコ入れし、韓国の反帝民族解放闘争の鎮圧につき進ませるものであった。日帝はそのためにこそ四〇億ドルにのぼる対韓援助を約束したのである。

さらに中曾根は一月十七日に訪米し、「日本は運命共同体」「日本列島を不沈空母にする」とぶちあげた。そしてその内容として、「ソ連のパックファイア機の侵入を阻止する防壁の構築」「四海峡(対島西水道、同東水道、津軽、宗谷)封鎖」「航路帯(シーレン)干カイリ防衛」などが当面の目的と主張した。日米経済対立をいっそう深刻化させつゝも日米帝は、対ソ対抗と反帝民族解放闘争の鎮圧という点で、日米軍事同盟の飛躍的強化にふみ出したのである。

中曾根訪韓・訪米をとおして日帝は、南朝鮮新植民地支配の強化を足場に、ソ連社帝と対抗し、朝鮮・アジア侵略反革命戦争準備をいっきに強化した。そしてこのために日米安保の再編を日帝の側からも積極的におしそすめたのであった。

このもとに、対米武器技術供与の決定、シーレーン防衛のための日米共同作戦研究の開始、朝鮮民主主義人民共和国への侵攻を想定して、ソ連のパックファイア機の侵入を阻止する防壁の構築」「四海峡(対島西水道、同東水道、津軽、宗谷)封鎖」「航路帯(シーレン)干カイリ防衛」などが当面の目的と主張した。日米経済対立をいっそう深刻化させつゝも日米帝は、対ソ対抗と反帝民族解放闘争の鎮圧という点で、日米軍事同盟の飛躍的強化にふみ出したのである。

中曾根訪韓・訪米をとおして日帝は、南朝鮮新植民地支配の強化を足場に、ソ連社帝と対抗し、朝鮮・アジア侵略反革命戦争準備をいっきに強化した。そしてこのために日米安保の再編を日帝の側からも積極的におしそすめたのであった。

このもとに、対米武器技術供与の決定、シーレーン防衛のための日米共同作戦研究の開始、朝鮮民主主義人民共和国への侵攻を想定して、ソ連のパックファイア機の侵入を阻止する防壁の構築」「四海峡(対島西水道、同東水道、津軽、宗谷)封鎖」「航路帯(シーレン)干カイリ防衛」などが当面の目的と主張した。日米経済対立をいっそう深刻化させつゝも日米帝は、対ソ対抗と反帝民族解放闘争の鎮圧という点で、日米軍事同盟の飛躍的強化にふみ出したのである。

したチームスピリット'83の強行、その一環として三月二一日に予定されている一四年ぶりの原子力空母エンタープライズの佐世保寄港と母港化、八三年度予算における防衛費の突出(対前年度比六・五%増)など、安保再編・軍備増強にむけた攻撃が急ピッチで進められている。

安保再編と連動し、改憲攻撃がかってない勢いでうちおろされている。自民党は一月二日党大会においてはじめて「自主憲法制定」決議をおこなった。さらに公然と改憲論者を自認する中曾根は、改憲の国民的合意を形成すると何度もくり返している。第九条の改悪と天皇の元首化を中心とする改憲攻撃は、ファシズム準備の基軸的攻撃としていよいよ具現化されようとしているのだ。この動きは民間ファシズム運動の台頭を急速に促進している。本年の二月一一日の「建国記念日奉祝式典」は総理府・文部省に加えて自治省の後援で開催され、中曾根は歴代首相としてはじめて祝電を送った。式典は民間ファシズム運動を結集し、民社党、新自由クラブ、公明党をまきこみ、「大東亜共栄圏の理想を極東軍事裁判的にねじまげてはならない」「八紘一字は眞の平和主義の理想」とぶちあげた。まさに戦前の紀元節さながらに、天皇の名のもとにふたたび侵略反革命戦争へ全人民を動員させんとする一大国家祭典としておこなわれたのである。

時代はいま音をたてて転換しようとしている。まさに戦争前夜の時代を迎えて、われわれはレーニンの遺訓をいまこそ想起しなければならない。かつてレーニンとロシアのプロレタリアートは、第一次帝国主義戦争の劫火のなかで、戦争を内戦に転化し、ロシアにおける社会主義革命の勝利をきりひらいた。そして社会主義革命に転落した第二インター諸党との党派闘争のなかから第三インター(世界党)を創建し、国際的なプロレタリアートの新たな團結を形成した。われわれもまたこのレーニン主義の道を進まなければならない。

それは帝国主義打倒・社会帝国主義打倒・中路線止揚の旗のもと、全世界の被抑圧民族の解放と社会主義をもとめて起ちあがる労働者人民との国際主義的連帯を築きあげることで、世界プロ独を組織する世界党建設を前進させていくことである。そして日帝の侵略反革命戦争を内戦へ転化する武装蜂起とプロ独権力の準備戦・プロレタリアートの正規の攻囲軍をこんぢから建設していくことである。

八三年にはいって日帝(中曾根の戦争とファシズム準備は巨大な労働者人民の憤激をよびさし、増大する生活不安を背景にして労働者人民の決起があいついでいる。この憤激と決起の細流を統合し、プロレタリア社会主義の準備線へと組織していくために全力をそそぎこまねばならない時を迎えたのだ。

革命的労農同盟の建設

三里塚闘争は、一七年前、一方的に空港建設を決定した権力に對する怒りと、この地で農業を続けていきたいという農民の生きがため、食わんがための要求に根ざした戦闘的農民運動として始まった。そして三里塚闘争はいま、戦闘的農民運動から意識的なプロレタリア階級闘争の一翼へのおおきな転換期をむかえている。農民運動のなかにプロレタリア的指導部を建設し、プロレタリア社会主義革命にむけた労農同盟を建設していくという歴史的課題を、戦後わが国階級闘争においてはじめて実践的課題へとおしあげつあるのである。プロレタリア階級とその前衛党は、ここにこそ一切の指導と援助を集中しなければならない。

この転換期は、第一に、三里塚闘争の歴史的地平そのものの要請である。三里塚闘争は、七八年開港阻止決戦を前後して、戦闘的農民運動が独立で到達しうる最高の地平である反帝主義政府打倒のスローガンを自己のものとし、「小さな人民蜂起」を生みだした。たしかに、この「蜂起」とプロレタリアートの全国一斉武装蜂起の間には、いまだ巨大なへだたりが存在した。しかし、それは現在の政府を打倒してどのような権力におきかえるのか、プロレタリアートの武装蜂起とプロレタリア独裁への農民の組織化を正面から問題にしない限り前進できない段階を切りひらいたのである。

第二に、それは、狭い農民運動の枠をうち破っていくこととする七八年以降のたたかいの前進が要請するものである。反対同盟は、ジエット決戦のなかから労農連帯の地平を前進させ、八〇年一〇・二一には、個別三里塚闘争の勝利のみならず、政府に反対する人民の総決起をよびかけ中央闘争をうちめいた。そして、昨八二年には高揚する反戦反核運動の先頭に立たんとしてきた。それは、いまだ社共のおおきな影響下にある政治闘争と労働運動の現状を根本的に変革していくという課題を反対同盟につきつけ、三里塚闘争をプロレタリア階級闘争の前進のための拠点としていることを要請したのである。

そして第三に、この転換期の前進を決定的に要請したものこそ昨年の条件派育成攻撃との闘争であった。反対同盟は、昨年三月「对话」攻撃に屈服した石橋、内田氏を解任し、一〇・一一集会では「成田用水反対」をうちだし、以降、自主暗きよをもつて菱田成田用水策動と対決してきた。だが、条件派育成攻撃との闘争は決して終ったわけではない。条件派育成攻撃にけつして揺らぐことのない反対同盟へと基礎から武装していくことがいつそう重要な課題となっているのである。

そのために、反対同盟の、とりわけ、その指導部の中から条件派への転落が生みだされた根拠が基礎からとらえづくされねばならない。敵の条件派育成攻撃は、七八年部分開港

の既成事実と二期着工の重圧を背景にして、農民の小土地所有者ゆえの不安につけこみ、それを逆手にとることで絶えずうちおろされてきた。そして、この攻撃への屈服者は、たゞ反対同盟の指導部であつたとしても、労農連帯を切りひらき、反戦反核運動の先頭に立たんとしてきた三里塚闘争の転換期にてこれず、狭い農民階級の経済要求、政治要求の中にとじこもってきた部分のなかから集中的に生みだされたことを正面からとらえなければならない。

だからこそ、この事態を突破していくための基礎的見地を次のように確立しなければならない。農民は、小土地所有者と小商品生産者であり、プロレタリアートとは異なる独自の階級を構成している。そして、資本主義社会における農民は、資本主義によつて不斷に没落させられ、ブルジョアジーとプロレタリアートの間を動搖する階級である。このような農民が革命的になるのは、「自己の立場を捨ててプロレタリアートの階級的立場へ移行する場合だけ」(マルクス)である。農民のこの階級的性格ゆえに、戦闘的農民運動は、その狭い農民階級の経済要求、政治的民主主義要求の枠内にとどまる限り、権力との攻防が煮つまれば煮つまるほど、その内部で分解を生み出さざるをえない。プロレタリア階級とその前衛党にとって問題は、この分解を戦闘的農民運動のいっそ急進化と他方におけるブルジョアジーの側への解体といふくり返しに終始させてはならないこと。つまり、ブルジョアジーの側へ移行する部分とたたかい、プロレタリアートとともに社会主義革命の道を歩もうとする農民運動内のプロレタリア的指導部を建設し、そのもとに動搖する農民大衆を広範に結束させていくことである。昨年の条件派育成攻撃との闘争はこのようないくことの局面を迎えたのだ。

反対同盟は、かつて、条件派育成攻撃にたいして屈服した部分をたたきだし、「農地死守」「空港絶対反対」を中心とした反対同盟の基本方針のもとに再結束させていくこと以外にたたかう条件をもつていなかつた。だが、この基本方針は三里塚闘争の原点的スローガンではあっても、狭い戦闘的農民運動のスローガンである。したがつてそれは、三里塚闘争の転換期の進路を指し示すにはもはや不充分であり、農民をその狭い経済要求・政治要求から解き放ち階級闘争の主体へと形成できないために条件派育成攻撃ともはやたたかいきれないものである。しかし、この数年間の三里塚闘争の転換期は、反対同盟の中に「労働者は賃金にしばられた奴隸であり、農民も奴隸だ。奴隸からの解放を求めてともにたたかおう」とよびかけ、農民としての未来をプロレタリア社会主義革命に託し、プロレタリアートとともに階級闘争全体の前進のためにたたかおうとする先進的農民を生み出して

きた。そこにこそ、条件派育成攻撃にたいして、かゝっての地平を越え基礎からたたかいぬく新たな条件が存在している。この先進的農民をプロレタリア的指導部へ確立し、広範な農民大衆を日帝の戦争とファシズム準備とたかう社会主義革命にむけたプロレタリア階級闘争にひきいれ、ここに三里塚闘争の勝利の確信を築きあげていくこと。このたたかいと結びついて、はじめて条件派育成攻撃に決して搖ぐことのない反対同盟を確立できると確信するものである。

反対同盟のプロレタリア的指導部を建設し、戦闘的農民運動からプロレタリア階級闘争への転換をかちとるための最大の条件は、プロレタリア社会主義革命にむけた労農同盟の建設にある。プロレタリア階級にとつてその重要性は明白である。歴史上どのよだなプロレシア革命においても、中国、ベトナム革命においても前衛党の指導と労農同盟の建設によって勝利をかちとつた。そしてロシア革命においても、中国、ベトナム革命においても前衛党の指導と労農同盟の建設によって農民のなかから幾多の英雄的なプロレタリア革命の戦士を生み出してきた。農民の大衆ではなかから幾多の英雄的なプロレタリア社会主義革命の戦士を生み出してきた。農民階級一般との同盟ではない。農民内の階級的分岐を発展させ、広範な農民大衆をプロレタリア階級闘争にひき入れていくことを目的にしたものである。

その時、われわれは、わが国のプロレタリア階級本隊が三里塚闘争一七年のほとんどの時期を通して三里塚農民の前に信頼しうる革命の指導階級として登場してこなかつたこと、そして、三里塚闘争の転換期がほぼプロレタリア階級本隊と切断された中から始まり、先進的農民におおきな困難を強制してきたことを自覚しなければならない。戦後労働運動を久しく支配してきた総評労働運動は、その戦闘的組合主義の本性ゆえに三里塚闘争を黙殺し、社共・民同は権力・資本と一体になつて三里塚闘争破壊とレッド・ページに奔走するにいたつた。プロレタリア階級本隊は帝国主義的労戦統一をめぐる大流動のなかから、いまようやく総評労働運動のくびきをふり払はるときである。だからこそ、まず階級的労働運動創建の先頭に立つ先進的プロレタリアートが労農同盟建設の先頭を担わねばならない。そして、プロレタリア社会主義革命の準備と切斷された二期阻止の戦術共闘にとどまり、組合内の反社共小数派活動家集団によつて担われてきた既存の「労農連帯」の限界を根底的に変革していくかねばならない。われわれは、プロレタリア政治統一戦線と全国労組連の建設をもつて基礎から階級的労働運動を創建せんとする「労研」!!武装せる革命の伝導路の建設をもつてこの任を担うつもりである。三里塚闘争一七年の偉大なたたかいは、戦後はじめて労農同盟の建設を実践的課題に

のぼせた。それはたしかに、いまだ一地方における、蜂起の前夜からまだ遠くへだてられた時代における端緒的事業である。しかし、このたたかいに勝利するならば、わが国プロレタリア階級は、明白には、そして将来には、圧倒的な農民大衆を革命の戦列にむかえ入れ、蜂起とプロレタリア独裁の道を進撃する日を必ずや実現するであろう。

日和見主義者と分岐し

三・二七闘争の勝利を

急進民主主義Ⅱ中核派、また、第四インターを筆頭とする右翼日和見主義は、三里塚闘争をプロレタリア階級闘争の拠点へと建設する面においても、三里塚闘争の転換期を領導する面においても日和見主義であり、阻害物へと転落している。

中核派の誤りの第一は、三里塚闘争を革命の戦術拠点と位置づけ、三里塚闘争を反ファシズム統一戦線の「左」の補完物へおとしこめることにある。

中核派は、「三里塚二期決戦勝利・革命的武装闘争」をもって日帝Ⅱ中曾根を打倒し、総蜂起をきりひらけとよびかける。そして、反対同盟の基本方針は、それ自体が全国的内乱・内戦・蜂起をはらんでおり、「革命的武装闘争」とは、「三里塚闘争・反対同盟、人民の話し合い拒否の意志・精神・たたかいを向目的・目的意識的に貫徹」するものとする。だが、社会主義革命の勝利は、プロレタリアートの正規の攻囲軍、赤軍とソビエトの歴史的建設戦なしにはありえない。三里塚闘争は、この蜂起とプロレタリア階級闘争に組織していくことは無縁の、戦闘的農民運動の戦闘性を、それを代行主義的に表現したものにすぎない。彼らは、勇ましい「革命的武装闘争」のかけ声の他方で、社民との統一戦線による反ファシズム統一戦線の形成をよびかけている。中核派は、結局、三里塚闘争を反ファシズム統一戦線の「左」の補完物へおとしこめようとしているのである。

中核派の誤りの第二は、三里塚闘争の転換期を戦闘的農民運動の戦術的急進化のなかに解体させることである。彼らは、条件派育成攻撃への屈服が生みだされた根拠を、基本方針の不徹底さに求めた。そして、「裏切り者との死闘」「除名」によって、農地死守の原

点にたちどまり、基本方針の厳密な貫徹を要求することを回答してきた。だが、屈服を

生みだした根拠は基本方針の不徹底さにあるのではない。基本方針は、反対同盟農民としての最初の政治要求、経済要求を表現したものではあっても、プロレタリア階級闘争への転換期の進路をしめすには不充分となり、条件派育成攻撃とたたかえないものとなつていいのだ。日帝の戦争とファシズム準備とたたかい、プロレタリアートとともに社会主義革命にむけた階級闘争の道を歩もうとする先進的農民のプロレタリア的指導部を建設すること、そのもとに反対同盟の新たな団結をつくりだすことこそが問われているのだ。そしてすでに、先進的農民は「一七年間のたたかいがあるのだからもう原点にもどることはできない」と表明し、中核派の限界をこえて、プロレタリア階級闘争との結合、労農同盟建設の道を歩みはじめているのだ。農民は農地を死守せよ、そうすれば中核派が「革命的武装闘争」でもって日帝を打倒するという彼らの路線はもはや三里塚闘争の前進の前にたちふさがる阻害物となっているのである。

第四インターをはじめとする右翼日和見主義の誤りの第一は、三里塚闘争をふたたび「農業問題」におとしこめることにある。彼らは条件派育成攻撃への屈服が生みだされた根拠を基本方針の狭さにもとめはした。だがその狭さを、社会主義革命にむけたプロレタリア階級闘争への前進、反対同盟のプロレタリア的指導部と労農同盟の建設へ解き放つではなく、正反対に農民の生産意欲を組織し、自民党農政に反対して農業を発展させることに反対同盟の団結の基礎をおくよう主張した。そして、「三里塚の農業と生活を再生するたかいをもって、新たな三里塚全国陣型を」(第四インター)とよびかけるにいたついたる。たしかに、三里塚闘争は農民の生きるために、食わんがためにこの地で農業を続けたいという要求からはじまつた。しかし、一七年間の権力との死闘のなかから、労農連帯をきりひらき、狭い農民運動の枠をふみこえようとしてきた。右翼日和見主義は、この転換のいっさいを無視し、戦闘的農民運動の戦闘性すら投げすてんとしているのだ。われわれもまた、闘争の経済的基礎をつくるという意味で自主農業基盤整備は必要だと考える。だが、そのたたかいは、反対同盟のプロレタリア的指導部の建設と結びつかねば、条件派育成攻撃と真にたたかう武器とはなりえないのだ。

右翼日和見主義の誤りの第二は、三里塚闘争を自民党政打倒なるブルジョア独裁内の政権交代を求める闘争へ歪曲し、社共Ⅱ中間連合政府派への屈服を要求することである。第四インターは次のように主張する。「あらゆる政治潮流、あらゆる闘争団体から個人にいたるまで単純明解な二者択一がせまられて

いる。『中曾根に屈服するか。中曾根政権打倒に決起するか』と」「『反中曾根』の声が議会内取り引きの圧力として霧散せられる」のか、それが真に中曾根を階級的実力で打倒するものになるか否かは、国鉄・三里塚を最前線とする闘争の高揚いかんにかかっている」と。だが考えてもみよ。中曾根政権打倒は社共のスローガンもあるのだ。第四インター

は、社共をつきあげ、社共中間連合政府のあとおしのための道具へと三里塚闘争を転落させようとしているのだ。

このような右翼日和見主義のなかで赫旗派は独自の位置をもっている。彼らは「たたかう農業」を社会主義的農業集団化だと意味付与し、それへの労働者の援助を労農同盟だと主張する。だがプロレタリアートの政治革命Ⅱ武装蜂起とプロレタリア独裁権力の樹立、それへの農民の組織化を失落させた彼らの主張は、レーニン主義労農同盟建設とはまったく異なるものである。彼らの本質は第四インターと変わることろはなく、ただそれを「社会主義」の言葉で飾りたてているだけなのだ。

右のちがいはあっても、三里塚闘争を反ファシズム統一戦線の補完物へおとしこめ、三里塚闘争の転換期を、旧来の戦闘的農民運動の枠内における「左」右への分解のなかに解体させようとしている部分である。彼らとの連合たる党派闘争のなかに先進的農民、プロレタリアートを組織し、三里塚闘争の新たな前進にならう主体を形成していくことが決定的に重要な課題となっている。

なぜなのか。いま転換期に立つ反対同盟はその内部に激しい流動と論争を生みだしている。それは明らかに前進のための試練といえるものである。だが、「左」右の日和見主義党派は、この転換期を領導するプロレタリア階級の前衛党としての指導をなしえないばかりか、反対同盟内の流動の一部に直接的に依拠し、小戦術的抗争にあけくれている。わ



切り崩し策動に抗し団結を固めた昨10・11集会

れわれこのような党派闘争の現状を絶対に承認するわけにはいかない。われわれは、たとえ独力でも労農同盟建設にふみだし、プロレタリア的指導部への歩みを開始した先進的農民とともに三里塚闘争の転換期総体をきりひらくためにたたかう。そして前衛党的責任において、「左」右の日和見主義党派との断固たる党派闘争をたたかいぬかねばならないと決意しているからである。

三・二七闘争は、わが国階級闘争全体にとっても、三里塚闘争にとってもきわめて重大なたたかいになるうとしている。あらゆる工場、学園、戦線においてただちに三・二七闘争の組織化に着手しよう。そして、次の任務をかかげて三里塚現地に決起しよう。

第一には、日帝II公団の八三年二期着工攻

撃を絶対に阻止することである。反対同盟の提起する事業認定粉碎の全国運動、自主農業基盤整備のたたかいと結合し、二期着工攻撃に決定的痛打をあげなければならない。

第二は、三・二七闘争を、日帝II中曾根政権の戦争とファシズム準備と正面から対決するプロレタリア政治闘争としてたたかいぬくことである。軍事空港建設と一七年間にわたつたたかいぬいてきた三里塚闘争は、反戦反核運動を支配する社共の小ブル平和主義にたいする実践的批判的位置をもつものである。だが、それはいまだ政治スローガンをめぐる小ブル平和主義との鮮明な分歧にまで発展させられていない。日帝の戦争とファシズム準備と対決する鮮明なプロレタリアートの政治スローガンをかかげて決起し、三里塚闘争を

第三には、三里塚闘争の転換期を前進させ、戦闘的農民運動から、プロレタリア階級闘争の一翼へと発展させていくことである。反対同盟のプロレタリア的指導部の建設に、断固とした連帯と援助を組織しなければならない。そして第四に、階級的労働運動の創建と結びつけ、労農同盟建設の歴史的事業にふみだしていくことである。

三・二七闘争まで、残すはあとわずかである。全身全霊を傾けて組織化に奮闘しよう。共産同（全国委）とともに、総力で現地闘争へ！

1・22~23

第七回 全国労働者集会開かれる

大阪

「全国連絡会議の発展を」

一月二二～二三日、大阪においている中曾根反動内閣を打倒する

て「反帝反独占の旗を高く掲げ侵略と差別の歩む全民労協と対決する第七回労働者討論集会」が全国から千数百名の戦闘的労働者を集めして開催された。

十の分科会で討論

今第七回全国集会は、昨年の全民労協結成と中曾根内閣による一大攻勢のもとで、昨年までの交流集会的な性格を突破する課題をひきうけて開催された。すなわち昨年末に結成された「全国労組・活動家連絡会議」を、真に階級的労働運動の全国指導組織として確立し、社共と分岐した旗印を鮮明にする任務が課せられていたのである。

一日目の全体集会は、全港湾関西本、全障連、部落解放同盟大坂府連、韓青同、フィリピン、イギリスからの海外代表などからのあいさつをうけたのち、労働情報、櫻口氏からの基調報告がなされた。

報告は、今集会の獲得目標を以下三点において提起した。第一に、北労研、全国一般大鵬薬品、全国一九二九年の世界恐慌にならぶ現下の世界資本主義の危機は、階級闘争を「侵略・戦争と革命の時代」としてつきだしていること。この

時代認識を意志一致すること。

第二に、戦後史を反革命的に総括せんと公言し、人民に襲いかかっ

た。最後に議長団が基

て討議が活発におこなわれた。多くの分科会において、先進的労働者が全国労組連の強化拡大を主張し、並行して労働者階級の政治的統一戦線の建設を主張した。これ

軸とした統一戦線布陣を強化して

軸とした労組連を強化し、労研センターを

労組連を強化し、労研センターを



第七回全国討論集会は、昨年ま

で討議が活発におこなわれた。多く

に、主体的な部隊の形成であり、

軸とした統一戦線布陣を強化して

軸とした労組連を強化し、労研センターを

労組連を強化し、労研センターを

の大衆的な政治的統一戦線を建設しなければならない。それが掲げるべき中心的政治スローガン、全国的地方的政治行動の計画、事務局機構を作りあげ、このもとに活動家、労組を日常的に組織していくことである。

第三に、以上のたたかいを勝利的におしすすめるべく、社共との

分岐を鮮明にしなければならない。

第三に、以上のたたかいは、第一に、全国での集会に比し、「交流」から「

運動・組織」への転換の巨歩をふ

み出したものであった。われわれ

は各分科会での先進的労働者の主

張に注目し、それを更に確固た

階級的労働運動の主体的陣型にう

立強化にむけた新しい実践に裏づけられたものであった。また、多

に散在する十万の反社共の労働者

の社会主義とプロレタリアートの

党建設をめぐって党派闘争をおこ

なさい、労働者大衆を獲得していくことーこれなくしては産報化の攻撃に對して決起した先進的労働者

を社会主義革命と前衛党的建設か

らきりはなされた無力な組合内不

平分子におとしこめてしまってあ

る。この観点からわれわれは、

階級闘争全体の利益にもとづく社

らきりはなされた無力な組合内不

平分子におとしこめてしまってあ

る。この観点からわれわれは、

階級闘争全体の利益にもとづく社

一坪反戦地主会・民間未組織ブロック結成さる 未組織労働者の組織化めざす

沖縄

1.23

去る十二月十二日、一坪反戦地 始点である沖縄基地は目に見えて 急速に強化されている。昨年暮、 嘉手納基地を世界最大最強の空軍 成され、これを受けて一月二三日、嘉手納基地をしていくことが明らかにさ その最初のブロック形成として民間未組織労働者ブロックの結成総 間未組織労働者ブロックの結成総会が開催された。

◎基地とたかう新たな運動 侵略反革命戦争へ向け「日本を 不沈空母へ」せんとする攻撃がと みに激化している今日、その最大 兵隊はN.B.C.（核・生物・化学兵

全民労協と対決する全国左派陣営構築せよ

八三年春闘アピール

全国のたたかう労働者人民諸君！

「戦後政治の総決算」をかけて登場した日帝・中曾根政権下で、日本労働運動は一大再編期を迎える。帝国主義の意をうけた右翼的労戦統一派は全民労協を結成し、労働運動の翼賛化・産報化の道をひた走っている。右への統合か左からの再編か 戦後労働運動もまたひとつの「決算」を迫られているのである。

いまこそ階級的労働運動の構築をめざす先進的労働者たちの飛躍と奮闘が要求されている。右の流れに抗す独自の陣型建設が急務となっている。八三春闘の攻防戦がはじまつた。今春闘を階級的労働運動の一大前進の戦場として、全国の職場・地域でたたかいぬこう。

進む不況と戦争準備

•••'83春闘情勢

八三春闘をとりまく情勢についてまず簡単ににおさえておきたい。

情勢の第一の特徴は、空前の世界同時不況の進行という点である。

七〇年代初頭に顕在化した世界資本主義の危機は、いっこうに回復の兆しをみせずますます深まっている。不況、インフレ、失業の増大が主要帝国主義諸国で慢性化している。とりわけ失業問題は各国で深刻化しており、本年に入つて記録を更新する国があいついでいる。本年一月段階で失業者数はイギリスでは三二二万人、一三・八%、ベルギーでは四九万人、十一・六%といずれも史上最高を、さらに「西側の優等性」の位置を誇ってきた西ドイツでも二五〇万人、一〇・二%の戦後最高を記録している。アメリカではやや下降

したものの一四〇万人、一〇・四%と依然高水準である。

また第三世界諸国の経済危機はよりいっそ

う先鋭化しており、昨年のメキシコ金融危機にみられるように、帝国主義諸国にたいする

ぼう大な債務（総計五二四〇億ドル／八年）の返済不能におちいる国が続出している。

第三世界諸国では世界不況による物価高騰、物資不足、失業問題はまさに死活問題である。

本年一月には、世界的な石油需要の減退のあおりをうけ、アフリカ有数の産油国であるナイジェリアで約二〇〇万の移民労働者が国外追放されるという事件が起きている。

日本とて例外ではなく、経済危機は除々に深まってきており、十年ぶりに粗鋼生産一億トンを割り六割操業におちこんでいる鉄鋼産業をはじめ、造船、家電などこれまでの主力輸出産業部門で低迷状態がつづき、他方で、自動車やVTR輸出問題をめぐって、米・E.C.諸帝との対立が激しくなってきている。ま

器）戦特殊防衛部隊が配備されていることを公式に認めた。

一坪反戦地主会は、このままま強化していく沖縄基地と真向から対決していくものとしてある。者の中でも民間未組織労働者ブロックが明瞭にされ、また在沖米海軍が明らかにされ、また在沖米海軍もACM（空中戦闘技量評価装置）の設置、シーレーン防衛のための海自対潜作戦データ施設建設が明瞭にされ、また在沖米海軍は、このたたかいの最先頭に立って結成された。

◎未組織の組織化に全力を

しかし、民間未組織労働者ブロ

クは、このたたかいの最先頭に立つとともに、圧倒的な未組織労働者たちが置かれた現実をふまえたうして結成された。

◎未組織の組織化に全力を

しかし、民間未組織労働者ブロ

ツクの任務は、反戦闘争の結集軸にとどまるものではない。沖縄の特殊的な経済構造のもとで、労働者のはほとんどは中小零細企業従事者であり、組合結成もままならぬ劣悪で不安定な条件のもとにおかれている。沖縄の労働運動を問題にする時、この未組織労働者の組織化ぬきには空語である。

沖縄ではじめて民間未組織労働者組織化を正面からかかげて結成されたこの組織の運動が大きく発展していくことが期待されている。そして将来的には、沖縄の労働者が置かれた現実をふまえたうえでの実践的結論である合同労組の建設へと、具体的に結実されていかねばならないと考える。

反共・労資協調・資本主義擁護を当面の旗印とする現代の産業報国会にはかならない。

「八〇年代労働運動における最大の基本戦略課題」（「全民労協結成にあたって」）とされる右翼的労戦統一は、いまや強力な組織実態を有す段階に入った。そして強大な力を背景に最初の「共同行動」が開始され、今春闘においては、要求基準（七%）、要求論理（経済整合性論）、闘争戦術（JC回答への集中、ストなし、ボス交、大企業労組優先）を四団体で統一した実質的な「全民労協春闘」—すなわち完全な管理春闘が仕組まれようとしているのである。

全民労協の始動によつて、総評の崩壊＝右から解体は決定的なものとなつた。第一陣参加五単産のあとを追い、全金、私鉄などの全民労協参加があいついで決定されている。また官公労においても、全電通と全官公（同盟）が官公労も早く統一すべきだなる合意をかわす（二月九日）などの事態が生まれている。

情勢の第三の特徴は、中曾根政権下で労働運動の帝国主義的再編、労働運動への強権的攻撃が強まっているという点にある。

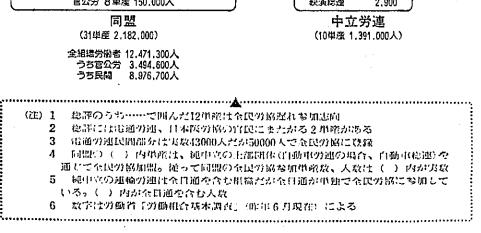
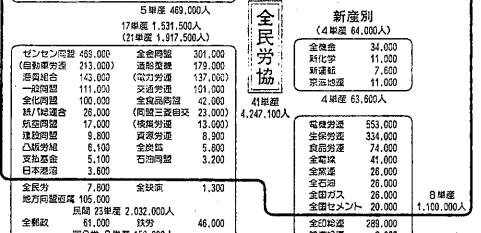
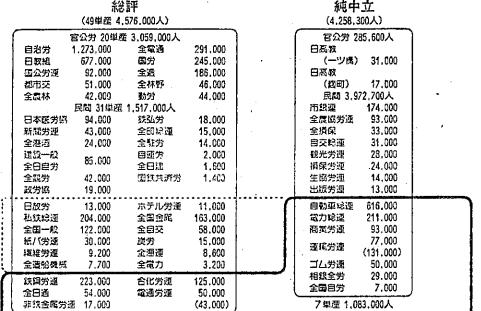
中曾根政権の登場以降、日本帝国主義の侵略反革命戦争・ファシズム準備は、一挙に加速されている（前掲論文参照）。ここでとくにつけ加えておくべきは、天皇を頂点とする「第三憲政」という名のファシズム体制樹立を展望する中曾根は、歴代首相のうちでも抜きんでた反共主義者であり、階級闘争、労働運動にたいする徹底的な敵対者であるといふことである。中曾根は自伝で、戦後直後の青年塾時代、電産労組のたたかいに襲撃をくりかえし、これを破壊したことを得たとのべているのであるが、中曾根にとっては今も昔も労働者の階級的なたたかいは、第一に抹殺すべき対象なのである。軍拡・改憲・行革、あるいは人勧凍結などの一連の攻撃は、そのいずれもが戦争準備とむすびついた、労働者人民を排外主義的に統合していく攻撃にほかならない。八三春闘はこれらの攻撃の渦中にあら。

独自の陣型建設が要

● ● ● ● '83春闘任務

以上の情勢をふまえて、われわれは本八三春闘において次の任務をかかげ、たたかいで展開することを呼びかける。
まず第一には、ブルジョアジーとその手先たる右翼労組幹部による賃金切り下げ攻撃に抗して、確実に賃上げを獲得するたたかいで、大衆的な労働者の実力による労働（組合）運動として組織することである。
そのさいに重要なことは、どれだけ高率の賃上げをかちとるのかという点に主要な焦点を置くのではなく、どのように労働者のあい

労戦再編図



(注) 1. 総評のうち……で開いた10単連は、官機労連に統合され
2. 以下は10単連の内訳、11単連の内訳には含まれない2単連がある
3. 各連の会員数は、本会員3000人以上が2000人未満の会員に記載
4. 4単連は、1. 内訳は、國中連の10単連は(1)官機労連(2)官機連(3)官機連(4)官機連
5. 10単連の内訳は、(1)官機労連(2)官機連(3)官機連(4)官機連(5)官機連(6)官機連(7)官機連(8)官機連(9)官機連(10)官機連
6. 数字は各連の会員数を含む会員数

だの團結を強め、労働者のたたかいの武器（組織）を鍛えあげるかという点にこそ設定せねばならない。

現下の帝国主義的労戦統一の攻撃が、労働（組合）運動そのものの解体攻撃としてあるがゆえに、われわれは労働者の第一次的、基礎的な團結体である労働組合の運動と組織を、われわれの手で階級的に再生していくために力を尽くさねばならないのである。

第二には、官公労と民間の労働者のたたかいを固く結びつけ、官民をつらぬく地域共闘を組織し発展させることである。

すべての労働者、労働組合は個別企業・単産のなかだけにたたかいを限定すべきではなく、企業と産別の壁をこえる労働者の共闘、とりわけ官民共闘を意識的に追求せねばならない。ブルジョアジーによる官民分断、個別攻撃とたたかいきることなしに、労働者はみずから階級としての力を強化することはできない。そのことは昨年来の人勧凍結攻撃や、他方での官公労労働者への人勧凍結を口実にした八三春闘ベアリゼロ攻撃などをみてはっきりしている。それらは結局、労働者全体にかけられている攻撃である。

八三春闘において官民共闘を強め、しかも同時に今後の攻防を考えるならば、たたかう労働者の強力な地域闘闘拠点の創出、強力な地域共闘組織の核として、それを発展させていかねばならない。

第三には、日本の労働者の圧倒的多数を占める未組織労働者の組織化を大きく前進させていくことである。

全民労協は民間労働者の過半数を傘下に置いたと宣伝しているが、それは大企業中心の組織労働者の世界のことであつて、日本の労働者の大半は未組織のまま放置され（昨年十一年の労働省の発表によれば組織率は一九四八年以來最低の三〇・五%にすぎない）、劣悪な労働条件のもとにおかれている。

一人の労働者の苦しみとたたかいは、万人の労働者の苦しみとたたかいであらねばならない。この数年間に急速に、大企業と中小・零細企業の労働者のあいだに、パート・臨時

労働戦線の右翼的再編に反対し、闘う労働運動を強める全国労組・活動家連絡会議」を、名実ともに全国の戦闘的労組を総結集した全国労組連として飛躍させ、他方でこれを支える地域拠点の強化に本格的に取り組まねばならない。

最後に第五には、以上のたたかいを階級的労働運動の戦略的陣型構築へと結実させていくことである。

ここ二、三年が日本労働運動の正念場である。とりわけナショナルセンターの再編・形成をめぐる組織戦が激化することは避けられない。全国の左派労働者も独自のナショナルセンターを展望しなければならない。現在はその助走期である。労働運動における独自の労働運動の戦略的陣型構築へと結実させていくことである。

左派陣型建設にむけてわれわれは、①プロタリアートの政治的統一戦線②全国労組連絡会議③革命の伝導路④「労研」の三位一体の建設を推進する。

今八三春闘においては、昨年結成された「労働戦線の右翼的再編に反対し、闘う労働運動を強める全国労組・活動家連絡会議」を、

そのさいに重要なことは、どれだけ高率の賃上げをかちとるのかという点に主要な焦点を置くのではなく、どのように労働者のあい

だに、賃金はじめとする労働条件の格差は、

全国の労働者諸君！八三春闘を階級的労働運動の飛躍の橋頭堡にせよ！